

1 活力ある商業・サービス業の振興

めざす姿

- 個店や商店街の魅力が向上し生活に密着した特色ある商品やサービスが提供され、市民が笑顔で買い物をしている。
- 新しく事業に挑戦する人が増えたり、賑わいある街なかにイベントで多くの人々が交流している。

| | 現状 | | | | 目標 | | | | |
|-------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | H19 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | H35 |
| 小売業の年間商品販売額 (億円) | 460 | 450 | - | 470 | - | - | - | 470 | 470 |
| 空店舗を活用した出店者数 (延数) | | 3 | 3 | 8 | 10 | 11 | 12 | 13 | 18 |

- 27年度のポイント
- ① プレミアム付き商品券(こま得商品券)の発行
 - ② 小規模事業者活性化支援事業

① プレミアム付き商品券(こま得商品券)の発行

新規

【予算額】 18,760千円
H26補正 地域消費喚起交付金分

市民の生活支援、地元消費の拡大、産業振興を目的とした「プレミアム付き商品券」を発行し、地域経済の活性化を図ります。プレミアム分 20% (1,000円券×12枚)。

② 小規模事業者活性化支援事業

新規

【予算額】 1,000千円
H26補正 地方創生交付金分

小規模事業者が持続的な経営に向け、広告の充実や販路開拓など商工会議所と一体となって売上拡大に取り組む事業を実施する場合、その費用の一部を補助します。

| | |
|-------|-------------------|
| ■対象経費 | 広告宣伝費、設備設置費、改修費 外 |
| ■補助率 | 2/3以内 限度額20万円 |

※経営計画書を作成すること。

③ 商店街活性化事業 **継続** 【予算額 2,777千円】

中心市街地空き店舗等活用事業 2,340千円

事業者及び商店街団体が中心市街地内の空き店舗を賃借し、集客のための事業を実施する場合、改装費と賃借料の一部を補助します。

| | |
|-------|---|
| ■対象経費 | 改修費または付帯設備の設置費、空店舗賃借料 |
| ■補助率 | (改装費) 1/2以内 限度額100万円(商店街団体は200万円) (賃借料) 1/2以内 3万円/月額 12月分(商店街団体は24月) |

商店街駐車場運営支援事業 437千円

対象: 仲町、日の出町

④ 商工会議所指導育成事業 **拡充** 【予算額7,900千円】

駒ヶ根商工会議所が基本方針に基づき実施する各種振興事業に対し支援します。新規創業者に対する商工会議所の機能充実を支援します。

- ・飲食店ガイドブック作成補助 500千円

⑤ こまがね創業サポート事業 **継続**

市、商工会議所に「こまがね創業サポート窓口」を設置、また、市内金融機関等との連携を強化することにより、新たに起業する人を支援します。

※ その他関連事業

- 中小企業融資促進事業
- まちなか賑わいイベント事業

2 人が集まる「街なか」の魅力づくり

めざす姿

- 街なかが生活に便利な場所となり、暮らす人、買い物にきた人、交流する人が日常的に街なかを歩いている。
- 地域公共交通の中心として利用が図られ、誰もが訪れやすい街となっている。

| | 現状 | | 目標 | | | |
|------------------------|-------|-----|-----|-----|-------|-------|
| | H24 | H26 | H27 | H28 | H30 | H35 |
| 市民満足度調査（中心市街地活性化の取り組み） | 2.40P | - | - | - | 2.75P | 3.00P |
| 中心市街地の歩行者交通量（人） | 829 | 882 | 900 | 900 | 1,000 | 1,200 |

- 27年度のポイント
- ① まちなか賑わいイベント
 - ② 市街地再整備推進調査

① まちなか賑わいイベント事業 **継続** 【予算額 5,300千円】

KOMA夏!! 第13話（KOMA夏実行委員会） 2,000千円

7月に市街地で行われる手作りの市民祭りを支援します。

第58回駒ヶ根商工祭（駒ヶ根商工会議所） 800千円

地域産業の紹介や物販に多くの人が関わるイベントです。

商店街賑わい創出事業 2,500千円

まちなかの賑わいと活力を作るために祭りや販促イベントを実施する事業に対し、予算の範囲内で経費の一部を補助します。



| | |
|-------|---|
| ■対象者 | 商店街団体、コミュニティ団体(注) |
| ■対象経費 | 報償費、印刷製本費、広告宣伝費、会場使用料、賃借料(リース)、備品購入費、原材料費 |
| ■補助率 | 2/3以内 限度額80万円 |

(注)コミュニティ団体は商店街団体と連携すること。

*平成26年度実績：9イベント/事業



② 市街地再整備推進事業 **継続** 【予算額 5,233千円】

広小路北第一地区市街地再開発準備組合の事業活動支援、中心市街地の再整備の検討、賑わいあふれるまちづくりへ向けた取り組みへの支援を行います。

調査委託費 5,000千円（需要調査、まちづくり基礎調査ほか）

③ 駅前ビル活性化センター管理事業 **継続** 【予算額 32,605千円】

中心市街地の活性化に資するため、市民のコミュニティの場を提供する。駅前ビル全体及び駅前駐車場の管理を指定管理者が行う。

H27指定管理料 13,400千円（H26:13,400千円）

その他管理費 19,205千円

| 利用状況 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26見込 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 会議室利用人数 | 29,223 | 29,193 | 30,632 | 34,194 | 29,959 | 30,000 |
| 駐車場利用台数 | 113,399 | 116,523 | 124,625 | 124,096 | 130,321 | 131,000 |

※ その他関連事業

- 商店街活性化事業
- 小規模事業者活性化支援事業



2 人が集まる「街なか」の魅力づくり

めざす姿

- 街なかが生活に便利な場所となり、暮らす人、買い物にきた人、交流する人が日常的に街なかを歩いている。
- 地域公共交通の中心としての利用が図られ、誰もが訪れやすい街となっている。

| | 推移(H26は見込み) | | | 目標 | | | | | |
|--------------|-------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--------|--------|
| | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | H35 |
| 居住人口 | 739人 | | - | - | - | - | - | 770人 | 800人 |
| 中心市街地の歩行者交通量 | 2,184人 | | - | - | - | - | - | 2,500人 | 3,000人 |

27年度の
ポイント

- ① 駒ヶ根駅前広場計画を策定する。
- ② ワークショップによる広小路の沿道街なみ計画策定により、公民連携によるまちづくりを推進する。

① 駒ヶ根駅前広場計画策定

都市再構築戦略事業 効果促進事業

継続 【予算額 1,000千円】

現在の駒ヶ根駅前広場は、送迎車や各種バスの乗り入れ、公共交通の再編(こまちゃんバスの廃止、デマンド型乗合タクシーの開始)等により、交通結節点としての機能が不足しています。

また、駅前の活性化の視点からも、都市拠点としての機能がさらに重要となっています。

将来を見据えて、駒ヶ根の玄関口として、来訪者へのおもてなしができ、誰もが使いやすく、中心市街地の賑わいを生む駒ヶ根駅前広場を目指します。

【H26】
・基礎調査(交通量調査、事業者アンケート)
・比較案策定

【H27】
・比較案検討(交通事業者等)
⇒計画策定

② 無電柱化に伴う広小路沿道街なみ計画策定 **継続** 【予算額 100千円】

駒ヶ根市の交通拠点であるJR駒ヶ根駅と国道153号を結ぶ広小路地区は、延長約200mの中心市街地のシンボル軸です。

本地区において「第7期長野県無電柱化推進計画」の候補地として、無電柱化事業を長野県に要望しています。

無電柱化事業の実施にはアーケードの一時撤去が必要であり、アーケードの存続も含めて、歩行空間や都市景観の検討を行い、無電柱化事業と連携を図ることが必要です。

無電柱化事業を実施するにあたり、それを中心市街地のにぎわいにつなげるために、広小路の通りそのものを考えていきます。

広小路通りという公共空間の検討を、ワークショップ形式の計画策定手法を用いて、整備計画の「合意形成」と、整備後の利活用を目指します。

【H26】

- ・交通量(自動車、歩行者)調査
- ・アンケート調査(自動車、歩行者)
- ・調査アンケート調査
- ・ワークショップ形式による計画検討

【H27】

- ・H26に「合意形成」をするために進めてきたワークショップを、更に「主体形成」を目的に進めます。
- ・まちづくり講演会
- ・先進地視察 等

社会実験

計画策定



1 次世代成長産業の振興と企業誘致の推進

めざす姿 次世代につながる新たな付加価値の高い産業が創出され、成長産業、内需型・研究開発型企業の誘致により経済が活性化されている。

| | 推移 | | | | 目標 | | | | |
|---------------------------|-------|-------|-------|-------|--------------|-----|-----|--------------|--------------|
| | H23 | H24 | H25 | H26見込 | H27 | H28 | H29 | H30 | H35 |
| 製造業の製造品出荷額（工業統計調査）単位＝億円 | 1,292 | 1,187 | 1,170 | 1,200 | 1,250 | | | 1,600 | 1,800 |
| 工場等の立地・増設件数（工場立地動向調査）単位＝件 | 1 | 2 | 1 | 2 | 2 | | | 5 | 10 |

27年度の
ポイント ① 企業誘致推進調査活動
② 工業用地基礎調査事業

- ① **企業誘致推進員設置・企業誘致アンケート等の実施** **拡充** 【予算額 6,750千円】
 企業誘致推進員を配置し、誘致企業調査・企業訪問を実施 2,500千円
 企業誘致アンケートの実施、パンフレットの作成、企業訪問の実施 4,239千円
 次世代成長産業、内需拡大関連産業の立地推進
 上伊那地域産業活性化協議会との連携強化 11千円
 企業立地促進法に基づき上伊那地域で広域的に行っている企業誘致推進事業への負担
 企業立地や工場増設などの初期投資費用の軽減支援
 公有地、民有地の土地取得費に対し、要件を満たす場合にその一部を助成
 空き工場の取得に対し、土地・家屋の固定資産税相当額を3年度間助成

- ② **工業用地基礎調査** **継続** 【予算額 1,000千円】
 既存工業団地やその他地区への新規立地に備え、測量、周辺環境調査等を実施

2 地域を支える中小企業の経営基盤強化

めざす姿 企業、行政、金融機関、商工団体等あらゆる関係団体が連携し、中小企業の経営基盤が安定・強化し、地域産業が活性化している。

| | 推移 | | | | 目標 | | | | |
|------------------|-------|-------|-------|-------|--------------|-----|-----|--------------|--------------|
| | H23 | H24 | H25 | H26見込 | H27 | H28 | H29 | H30 | H35 |
| 制度資金融資額 単位＝億円 | 13.5 | 7.5 | 7.6 | 7.5 | 7.8 | | | 10 | 15 |
| 中小企業相談所相談件数 単位＝件 | 1,517 | 1,353 | 1,583 | 1,600 | 1,600 | | | 1,600 | 1,600 |

27年度の
ポイント ① 産業構造・産業力調査
② 中小企業融資促進事業

- ① **産業構造・産業力調査** **新規** 【予算額】 3,800千円
 H26補正 地方創生交付金分

ものづくり企業等に係る産業構造・産業力調査を実施し、新たな産業振興策・成長戦略を策定

- ② **資金融資制度充実** **拡充** 【予算額399,525千円】
 金融機関、信用保証協会と協調し、低利の融資制度により中小企業者の経営安定を支援
 信用保証料の一部を市が負担し、中小企業者の負担を軽減
 融資目標額＝市制度4億円、県制度5億円
 小規模事業者向け「特別小口資金」の創設

【予算額】 1,100千円
 H26補正 地方創生交付金分

- ③ **中小企業の新たな成長戦略、課題解決の支援** **継続** 【予算額 5,000千円】
 販路拡大のために、技術や製品の展示会等の出展に要する経費の一部を補助

3 雇用の創出と優れた人材の育成

めざす姿

誰もが持てる能力を発揮できる多様な働く場所が確保されている。
地域経済を支える優秀な人材の育成と確保がなされている。

| | 推移 | | | | 目標 | | | | |
|------------------------|------|------|------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|
| | H23 | H24 | H25 | H26見込 | H27 | H28 | H29 | H30 | H35 |
| 伊那管内有効求人倍率（11月数値） 単位＝倍 | 0.70 | 0.66 | 0.95 | 1.04 | | | | 1 | 1.3 |
| テクノネット駒ヶ根講座等参加者 単位＝人 | 560 | 430 | 550 | 600 | 650 | | | 700 | 800 |

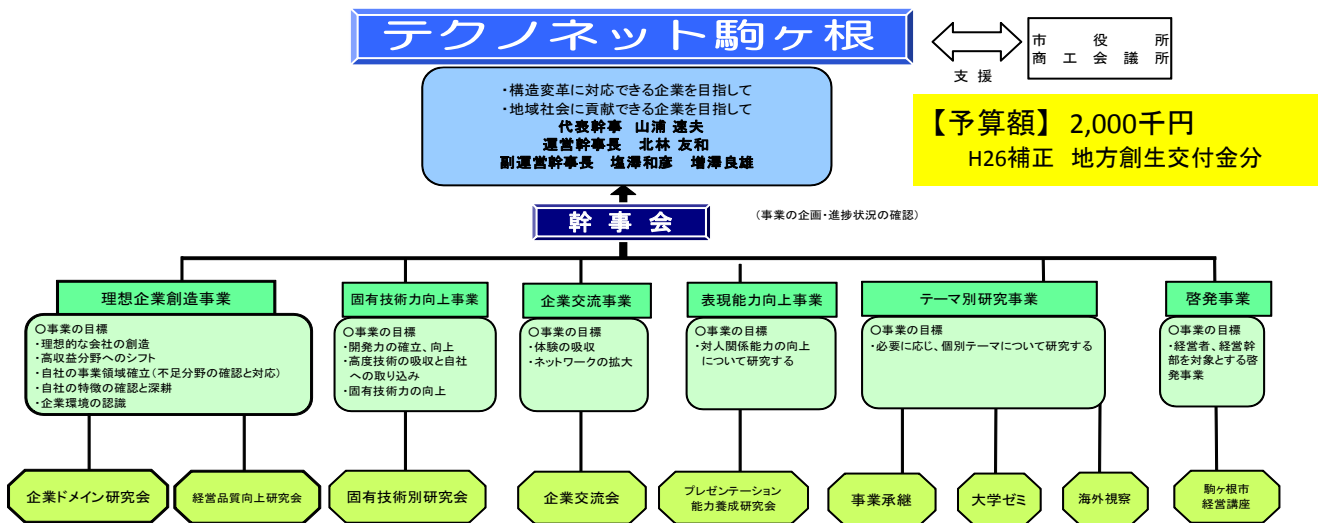
27年度の
ポイント

- ① テクノネット駒ヶ根事業
- ② 産学官連携推進事業
- ③ 学生のUIターン促進支援事業

① テクノネット駒ヶ根事業

拡充 【予算額 2,500千円】

異業種連携組織であるテクノネット駒ヶ根の活動支援を行い、個々の企業の体質強化を図る。



② 雇用対策協議会を中心とした雇用対策支援

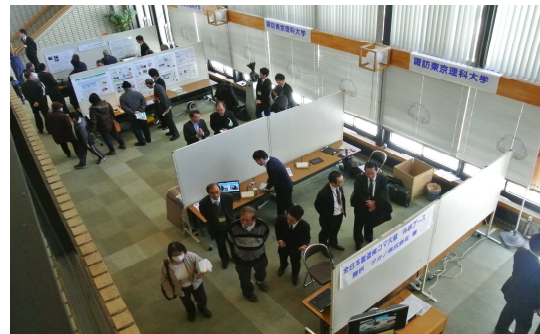
継続 【予算額 500千円】

駒ヶ根雇用対策協議会への企業会員の加入促進を図る。
協議会活動により、大学との連携を進めUIターン就職による雇用確保を図る。
企業における障がい者の法定雇用率確保を支援する。

③ 産学官連携推進事業

継続 【予算額 600千円】

第3回全国ものづくり高大連携発表会 & マッチングフォーラムの開催。
次世代を担う人材育成と「知・技」の集積により産学官連携の具体的事業展開を図る。



第1回全国ものづくり高大連携発表会 & マッチングフォーラム

④ 勤労者互助会育成事業と中小企業の経営安定化

継続 【予算額 4,074千円】

市内の中小事業所に勤務する勤労者及び事業主の福利厚生事業を担う勤労者互助会の運営を支援し、勤労者の福利厚生の増進を図る。

1 地域資源を活かした観光地域づくり

めざす姿

- 魅力ある観光地がつけられている。
- 観光客による市内での消費額が増えている。

| | 推移 | | | | 目標 | | | | |
|-------------|-------|--------|--------|--------|--------|-----|-----|--------|--------|
| | H23 | H24 | H25 | H26見込 | H27 | H28 | H29 | H30 | H35 |
| 観光案内所の案内件数 | 9,810 | 15,129 | 11,897 | 11,000 | 11,000 | | | 11,000 | 11,500 |
| 観光地来訪者数(千人) | 914 | 906 | 941 | 900 | 930 | | | 940 | 980 |

- 27年度の
ポイント
- ① 観光プロモーション活動推進事業
 - ② 観光施設管理運営事業

① 観光プロモーション活動推進事業

拡充

【予算額】5,710千円
H26補正 地方創生交付金分

- ・誕生2年目となる市PRキャラクター「こまかつぱ」を活用した観光PRの推進(予算額 3,410千円)
市内外でのイベントへの参加やオリジナルグッズの製作
- ・地域の魅力をさらに発信するためのツールの作成(予算額 1,000千円)
観光PRポスターの刷新、おもてなしマップの作成
- ・首都圏観光拠点「銀座NAGANO」を活用した誘客イベントの実施(予算額 300千円)
- ・出会いや結婚を応援する「幸せの森プロジェクト」、「山コン」への支援(予算額 1,000千円)



② 観光施設管理運営事業

拡充

【予算額 75,594千円】

- ・観光施設の指定管理を実施し、適正で効果的な運営に努める。(予算額 13,228千円)
駒ヶ根ファームス、アウトドア体験広場、駒ヶ根キャンプセンター、こまくさの湯、すずらん荘、戸倉山キャンプ場
- ・駒ヶ根高原の主要道路に道路愛称名看板を設置する(駒ヶ根高原サイン計画 予算額 500千円)
「中央アルプス通り」「光前寺通り」の道路愛称名看板の設置
- ・観光拠点施設である駒ヶ根ファームス、こまくさの湯、キャンプセンター等の改修を実施する
こまくさの湯など観光拠点施設の改修 (予算額 4,950千円)
- ・山岳環境の保全と登山道の改修を実施する(予算額 5,000千円)
空木岳及び檜尾岳等の登山道改修事業
- ・高原の良好な環境を守り育てるため維持管理を実施する。(予算額 4,600千円)
水と文化の森公園、駒ヶ池及び大沼湖周辺、高原トイレなど
- ・第三セクター改革推進事業(予算額 5,816千円)
駒ヶ根観光開発株の改革を推進する
- ・駒ヶ根高原温泉開発株の支援等(予算額 41,500千円)
早太郎温泉郷の源泉管理及び温泉供給施設管理の運営支援、温泉開発基金積立

③ 観光案内拠点機能強化事業

拡充

【予算額】4,000千円
H26補正 地方創生交付金分

- ・駒ヶ根ファームス案内看板の改修事業(予算額 3,000千円)
- ・菅の台バスセンター案内看板の改修事業(予算額 1,000千円)

④ 地域資源を活かした観光PR戦略

継続

【予算額 1,700千円】

- ・着地型旅行商品の企画開発と誘致を推進する(予算額 1,000千円)
- ・観光地の活性化に資するイベントへの支援を行う(予算額 700千円)

2 誘客交流の促進と駒ヶ根ブランドの確立

めざす姿 ○観光に訪れる人が増えている。

| | 推移 | | | | 目標 | | | | |
|------------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-----|-------|-------|
| | H23 | H24 | H25 | H26見込 | H27 | H28 | H29 | H30 | H35 |
| 観光消費額（百万円） | 4,872 | 4,754 | 4,981 | 4,500 | 4,800 | | | 5,000 | 5,500 |
| 地域ブランド調査魅力度ランキング（順位/1,047団体） | - | 337 | 271 | 308 | 280 | | | 250 | 200 |

27年度の
ポイント

- ① 国内外との地域間交流事業
- ② 駒ヶ根観光協会と連携した誘客の推進
- ③ 魅力ある観光プラン創出事業
- ④ ご当地ブランドの再認識・発掘による駒ヶ根ブランドの確立

① 国内外との地域間交流事業

継続 【予算額 583千円】

国内における友好都市や食文化を通じた交流など、地域間の交流を積極的に推進する
磐田市、二本松市、かほく市、赤穂市、淡路島、小浜市、横浜市、板橋区など
海外からの誘客（インバウンド事業）の推進
台湾台中市との交流を契機に、誘客促進のPRを実施する



石川県かほく市「カニカニ合戦」



台中市「純白の結婚式」

② 駒ヶ根観光協会と連携した誘客の推進

継続 【予算額 27,000千円】

・駒ヶ根観光協会への運営支援(イベント、観光案内所管理など)

③ 魅力ある観光プラン創出事業

新規

【予算額】 10,100千円
H26補正 地方創生交付金分
地方消費喚起交付金分

- ・観光ツアー創造事業(予算額 2,000千円)
- ・「プレミアム宿泊プラン」の実施(予算額 6,600千円)
- ・外国人旅行者受入環境整備事業(予算額 1,500千円)

④ 広域的な観光連携の強化と誘致の推進

継続 【予算額 681千円】

上伊那地域、伊那谷地域、伊那路・木曽路地域が連携した、広域観光戦略の推進
広域的な観光資源を活用した旅行商品の企画・開発
台湾・香港を中心としたインバウンド事業の推進
リニア中央新幹線開通を見込んだ広域観光戦略の企画・検討

⑤ ご当地ブランドの再認識・発掘による駒ヶ根ブランドの確立

継続 【予算額 200千円】

信州駒ヶ根の独自性のある特産品を再認識するとともに発掘を行う
ソースかつ丼、ごま、シルクなど地域の特産品等を活かした観光PRの展開
特産品だけでなく地域のオリジナルブランドの発掘とPR



3 UIターンと田舎暮らしの推進

めざす姿 UIターンで市内に暮らす人が増えている。

| | 推移 (H26は見込み) | | | | 目標 | | | | |
|-------------------|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | H35 |
| UIターンによる移住者数 (累計) | 22人 | 50人 | 80人 | 118人 | 125人 | 150人 | 175人 | 200人 | 300人 |
| 駒ヶ根市の人口における移住者の割合 | 0.06% | 0.15% | 0.26% | 0.36% | 0.37% | 0.45% | 0.53% | 0.60% | 1.00% |

※移住者数は交流促進室及び田舎暮らし駒ヶ根推進協議会で関わった人数

| | |
|---------------|----------------------------------|
| 27年度の ポイント | ① より移住希望者の目線に立った情報発信による移住促進 |
| | ② 民・官連携した「知恵」「活力」「安心感」によるサポートの推進 |

移住交流促進事業

継続 【予算額 3,610千円】

【予算額】 3,000千円
H26補正 地方創生交付金分

(1) 地域活性化UIターン相談員の設置

(2) 移住に関する情報の発信

【田舎暮らし駒ヶ根推進協議会】と連携しての事業推進

① 都市部移住推進機関へのブース出展

年間約12,000人の移住希望者が相談に訪れるNPO法人ふるさと回帰支援センター（東京有楽町）に駒ヶ根市ブースを設置し、駒ヶ根市への移住の魅力を発信する。



移住促進ポスター設置
駒ヶ根市ブース

② 都市部での相談会の実施

駒ヶ根市の魅力発信や定住・就農についての相談会を都市部にて実施する。

- ・駒ヶ根市の紹介、先輩移住者の経験談及び座談会、個別相談
- ・東京4回、名古屋2回、大阪1回



相談会の様子

③ 駒ヶ根市体験イベントの実施

駒ヶ根市の風土を四季を通して体感してもらうことを目的として体験会を実施する。

- ・駒ヶ根市内案内、物件見学会、先輩移住者の体験談及び座談会、季節に応じた体験（地域行事の見学、農林業体験、郷土料理体験）

- ・4月（春）、7月（夏）、9月（初秋）、11月（晩秋）、2月（冬）



体験イベントの様子

④ 移住促進用啓発DVD作成

より駒ヶ根市の魅力を伝えるため、移住希望者のニーズにあった映像媒体を制作し、更なる移住促進を図る。

- ・観光目線ではなく、先輩移住者の声や医療・教育・環境等にスポットを当てたIターン者用・Uターン者用映像媒体の制作を行う。

- ・都市圏セミナー、相談会、ホームページ（ふるさと回帰支援センター・JOIN・楽園信州・市）、市民ホール、田舎暮らし駒ヶ根推進協議会フェイスブック

⑤ 広告宣伝

全国的な移住情報誌等や地元情報誌への広告掲載 年4回

⑥ 駒ヶ根市版空き家バンクのマニュアル化 【予算額 0円】

駒ヶ根市独自の「空き家バンク」をマニュアル化し、周知を図る。

⑦ 移住者交流ネットワークの構築 【予算額 0円】

移住された方々の情報交換の場として、移住者交流会を開催。



駒ヶ根市に移住されたご家族

事業実績

| 区分 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 |
|-----------------|----------|----------|----------|----------|
| 都市部での相談会来場者数 | 122組169名 | 121組146名 | 112組143名 | 113組149名 |
| 駒ヶ根市体験イベント等参加者数 | 33組54名 | 48組76名 | 41組78名 | 40組80名 |
| 駒ヶ根市来訪者数 | 62組100名 | 91組144名 | 132組233名 | 120組225名 |
| 資料請求件数 | 36件 | 23件 | 61件 | 65件 |
| 移住者数(交流促進室関係分) | 9組22名 | 11組28名 | 11組30名 | 17組38名 |

※平成26年度は見込み